令和３年度研究成果概要一覧

◆教員名：鈴木健生

主要研究テーマ

保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

研究成果の概要

学修の場における学生間のグループワークなどのコミュニケーションにおいて、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることがある。本年度は「教職概論」の授業において、ミニホワイトボードを活用し、思考の可視化を行いながら、対話活動を実践した。具体的にはミニホワイトボードに個人の意見やアイデアを書き、それを見せながら、相手に伝えていく方法をとり、ミスコミュニケーションを減らし、ミニホワイトボードを起点とした対話を行うことが可能となった。授業のリフレクションシートにも個人思考の可視化と集団思考への移行がよりうまくいったとの記述が多数見られた。「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を更に追究したい。

◆教員名：川勝泰介

主要研究テーマ

児童文化財としての絵本の活用について

研究成果の概要

・児童文化財としての絵本を保育の中でどのように活用すればよいのかについて、主に昔話絵本を中心に考察し、その成果を昨年に引き続き本学図書館でのミニ企画展において披露した。昨年度は、「三びきのこぶた」を取り上げたが、今年度はグリム童話として世界的に知られている「赤ずきん」をペローの「赤ずきん」と比較した。

またこれらの成果は、上記のほかに、三重県生涯学習センターからの委嘱により行われた伊賀市教育委員会主催の令和３年度伊賀市人材育成講座（「読み聞かせボランティア入門講座（第１回）」や岐阜県各務原市の私立子苑第二幼稚園の園内研修、愛知県犬山市の令和３年度地域子育て支援拠点事業子育て広場担当者研修会において発表した。

・その他、同志社大学社会学部メディア学科竹内オサム研究室発行の『ビランジ』48号・49号に投稿し、それぞれ掲載された。

・上記以外では、北勢エリアの子育てファミリー応援フリーマガジン『きらきら』における絵本紹介を２回、あそび紹介を１回、子育てコラムを１回担当した。

◆教員名：伊藤康明

主要研究テーマ

ICTを活用した領域「環境」の教材開発

研究成果の概要

・授業科目「生活とかがく」「幼児の環境」に関する教材・教具の開発など、いずれも学生が自然に興味・関心を持つような観点で、科学実験を中心に工夫した。

　また、オンライン授業のための、映像教材を制作した。

・教員免許状更新講習及び学童保育所指導員講習における研修内容について、教材開発を行った。

・研究テーマ「Pythonによる Web スクレイピング」

科学教材のデータを収集するため、Web から各種データを収集できるよう、プログラミング言語 Python を使用したツールの開発について研究した。

◆教員名：安藤恭子

主要研究テーマ

形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる保育者としての能力を培うための教材の開発研究及び授業の在り方

研究成果の概要

教材の開発をシラバスに取り入れ授業実践ができた。コロナ禍にて家庭で実習できる教材の開発研究を行い、材料や参考資料の提供をして、学生の表現力が向上した。

画材の組み合わせを工夫することで学生の個に応じた指導の充実を図った。年間を通して、諸題材では執筆している萌文書林より出版の「幼児造形の基礎」を教科書として採用したため家での課題学習や授業に生かすことができた。学生一人一人が毎回の作品及び資料の数々を一冊のファイルにまとめることにより、学習実態の見える化を図った。その成果があり、個々の作品が向上した。いつでも、学生のアイデアを取り入れた教材の開発ができるように、資料、素材等の収集に努め、教室の環境経営を充実させることができた。

本年度の成果を来年度に繋げていきたい。

◆教員名：山野栄子

主要研究テーマ

・保育内容の教材研究や授業検討にについて

・保育者の専門性と質の向上にについて

研究成果の概要

・コロナ禍での授業で、Zoomやグレクサで意見交換したり課題学習に取り組んだりして工夫したことで、学生一人一人の理解度や主体的な学びの姿勢に寄り添う機会になり効果が図れたことは、今後に繋げていきたい

・保育者の専門性と質の向上について、今年度は子どものニーズ理解と支援方法の検討の場としての保育カンファレンスの在り方について研究し、日本保育学会で発表した。

また、三重県幼児教育センターのアドバイザーとして、伊勢市や松阪市などで保育の質向上に関する研修会の講師や津市の保育士キャリアアップ研修専門分野「乳児保育」での講師、幼稚園教諭免許更新講習や子育て支援員認定研修の講師をなど、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かして、地域貢献にも役立てた。

◆教員名：平松喜代江

主要研究テーマ

施設児の進路希望を可能にするための支援に関する研究
－施設別支援の特徴について－

研究成果の概要

児童養護施設在籍児・者（以下，在籍者）が大学等の進学を可能にする支援の在り方を検討するために，大学等へ進学した児童養護施設退所者に対して面接調査を行った．その結果，在籍者に対して進路に希望がもてるような進路情報の提供および説明と幅広い進路の選択肢を提示する「情報説明型支援」，および在籍者が希望する進路を実現するための具体的な知識や方法などを教示する「情報教示型支援」の２つの支援に集約できた．

希望進路の実現には在籍者自身のニーズに沿って学習支援することを基盤として，施設職員から提供される様々な支援によって希望進路が実現していると考えられた．社会的養護を必要とする児・者がどの児童福祉施設に措置されても等しく希望する進路の実現に向けた支援を受けられるような施設職員のスキルおよび支援体制を整えることが求められる．

◆教員名：松本亜香里

主要研究テーマ

・子どもの心身発達にかかわる保育教材および指導法研究

・ピアノ演奏技術および表現研究

研究成果の概要

保育者養成1年次の学生は高校までの教科教育の流れから、保育者養成での学びも科目単位で区切る傾向がみられる。そこで、1年次前期に開講されている「表現指導法」の授業の試みから、基礎ゼミナールや実習指導まで、科目間の連携により理論と実践の学びをつなげる設定を工夫した。指導法の土台として、学生自身がそれぞれに具体的な保育者像を描き、こどもとどのようにかかわっていきたいか、どのような保育を理想とするか、自身に問いかけ学び続けるという意識付けを目標とした。目標達成に向け、教員間で授業や学生の様子を共有し、授業改善に努め、紀要にまとめた。本年度は、先にも述べた「こどもの姿の捉え方」と「保育表現指導法」「保育教材研究」に加えて、「科目間連携」ならびに「保育内容領域」着目し、学会発表2本と学術論文3本を研究成果として残した。また、演奏技術および表現研究について、演奏活動を3回、講演を3回実施した。

◆教員名：桂山たかみ

主要研究テーマ

保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

保育者養成校の音楽教員の立場から、音符ではなく絵の器楽合奏譜の創作を行った。「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして」として、様々な打楽器の作曲をするなどの研究を進め、音楽に苦手意識を持つ保育者志望の学生や保育者に向けた楽譜を考案し、器楽合奏を楽しむ足掛かりを論じた。また、専門ゼミナール地域連携プログラムでの実践活動を通して、地域の対象者別に適した 40分コンサート活動を参加学生が企画し、プログラムを考えて実践した。参加した保育士と学生にアンケートを取り、この試みの成果と今後の課題を分析した。

◆教員名：田村禎章

主要研究テーマ

・地域福祉の主体形成、住民に対する福祉教育の実践と効果検証について

・地域レクリエーション協会・運営支援に関する実践的研究

研究成果の概要

地域福祉、地域共生社会の政策動向のなか、市町村の地域で福祉に理解のある地域福祉の主体形成が重要である。本研究では、おもに市町村社会福祉協議会の福祉教育実践に着目して、地域福祉活動計画の策定経過やそれに向かう住民の意識形成について、座談会や各種プロジェクト委員会をコロナ禍のなかでも実施できた。また、各地域でのレクリエーション協会の運営支援にかかわるなかで、レクリエーションイベントの設計方法やその実践活動に関する実践を通しての研究を実施できた。調査結果から各地域組織とのネットワーク化を図ることや行政施策へいかにレクリエーションの要素を取り入れていくことが重要となった。

◆教員名：伊藤喬治

主要研究テーマ

ノルウェーの保育者養成における専門性に関する一考察 ―学生向けテキストの分析から―

研究成果の概要

ノルウェーにおける保育者養成制度について、特に保育者の専門性の観点から検討を行う。これまでの先行研究によって、保育の専門性については文化によってその概念が異なることが明らかとなってきた。本研究ではそれをさらにすすめ、保育者の専門性として捉えられている概念を明らかにするために、当地でテキストとして使用されている文献を用い、その中で扱われているトピックについて分析を行った。そこで、遊びや発達の理論に関する内容よりも、社会的・政治的内容や、子どもとの権力関係や民主制の保障など、よりポストモダン以降の社会学的・哲学的な面での理論についての内容に重点が置かれていると考えられることが明らかとなった。なお、上記研究については学会発表を行った。

◆教員名：大矢知佳

主要研究テーマ

就学前後における脳神経活動に着目した運動遊びの効果の検討

研究成果の概要

身体を動かす情報や指令は神経細胞 によって伝達されている。子どもは神経型の発達が著しい時期とされており、基礎的な動きの獲得に適した時期である。文献調査よりヒトの動きの獲得の構造と子どもの脳・神経機能の発達と動きの獲得のメカニズムを整理し、現在も継続して文献を調査中である。

脳において、感覚器官からの情報と運動司令の情報の統合性より身体の動きの調整をしている。この調整を脳と筋の間の神経活動における同調性から評価する方法としてコヒーレンス法という手法が示されている。この手法を用いて単一歩行、二重課題歩行における脳神経活動について検討した。今年度は、成人において予備実験を重ね、測定法について確立していった。来年度は成人を複数名測定し、この結果を踏まえて幼児を対象として測定を進めていく予定である。

ユマニテク短期大学

令和　3年度　　研究概要報告書

令和4年4月28日

職名　教授

氏名　鈴木 建生

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法 ②愛着障害を抱える子に対する養育者と保育者との関係

研究成果の概要

①保育者における効果的なコーチングスキルの活用方法

日常的な会話などのコミュニケーションの場においては、非言語コミュニケーションのありようも含めて、聴覚的なコミュニケーションが中心となる。学修の場におけるグループワークなどのコミュニケーションもそのような場面がほとんどである。そのような場において、情報伝達の際に発信側の意図と受信側の解釈に相違があるミスコミュニケーションが発生したり、対話が曖昧なまま進められ、深い学びを引き起こせなかったりすることがある。本年度は「教職概論」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業するために、20㎝×30㎝のミニホワイトボードを活用し、思考の可視化を行いながら、対話活動を実践した。具体的にはミニホワイトボードに個人の意見やアイデアを書き、それを見せながら、相手に伝えていく方法をとり、ミスコミュニケーションを減らし、ミニホワイトボードを起点とした対話を行うことが可能となった。学習者は思考を一旦、ホワイトボードに書き出すことによって、思考を可視化するプロセスにおいて、自己との内省的な対話という段階を経て、他者との対話に向かうことによってより、豊かなコミュニケーションを促すことが出来た。課題解決、合意形成などを学修者たちがより明確な意思疎通を図るツールとして今後も、活用し続ける計画である。また、2003年にちょん・せいこ(株式会社ひとまち代表）が開発し、多様な領域で取り組まれてい「ホワイトボードミーティング」のメソッドを活用した。

②愛着障害を抱える子に対する養育者と保育者との関係

「できたことノート」の活用と自己肯定感の醸成について実践した。入学前教育において、入学前の３ヶ月間、記入することによって、自己肯定感の変化を観察した。記入前の自己肯定感と３か月後の変化を見た。現在、数値を解析中である。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　　）学会発表等（　1　）その他（　7　）

国際活動の有無（あり・(な)し）　社会的活動の有無（(あ)り・なし）

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　3　年度　　研究概要報告書

令和　4　　年　4　月　25　日

職名　教　授

氏名　平 松　喜 代 江

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	施設児の進路希望を可能にするための支援に関する研究 －施設別支援の特徴について－

研究成果の概要

1，学会発表

(1) 平松喜代江・堅田明義「希望進路を可能にするための支援に関する研究－児童養護施設における支援の特徴について－」日本社会福祉学会第 69 回秋季大会、2021 年 9 月 11 日～9 月 12 日

2，論文発表

(1) 平松喜代江「要保護児童の実態および保護施設に関する研究－終戦から児童福祉法制定まで－」ユマニテク短期大学紀要、第 5 号、1-13 ページ、2022 年 3 月

(2) 平松喜代江・桂山たかみ「創造性・人間性を豊かにする音楽表現活動－劇中の BGM・伴奏音楽について－」ユマニテク短期大学紀要、第 5 号、22-29 ページ、2022 年 3 月

3，その他の発表

(1) 平松喜代江「社会的養護下にある児童の進路実現と支援に関する研究」中部学院大学大学院博士課程、第 3 回研究中間報告会、2022 年 3 月 5 日

4，講座

(1) 教員免許更新講習「学校、家庭及び地域の連携及び協働」2021 年 7 月、12 月

(2)　三重県子育て支援員研修地域保育コース「乳幼児の発達と心理」講義 2021 年 11 月

(3) 放課後児童支援員等資質向上研修「運営主体の責務と放課後児童健全育成推進事業の役割、いじめや虐待への対応、家庭における養育状況の理解」講義 2021 年 10 月、11 月

(4) 子育て支援員研修「地域保育コース」「乳幼児の発達と心理」講義 2021 年 10 月

(5) 放課後児童支援員研修「保護者との連携・協力と相談支援」講義 2021 年 11 月 2 回

(6) ユマニテク短期大学入学前講座グループワーク（人間関係）2022 年 3 月

※（　）に本数をご記入ください。
著書（　0　）学術論文（　2　）学会発表等（　2　）その他（　6　）
国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。
※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/26	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください

ユマニテク短期大学

令和　３年度　　研究概要報告書

令和　４年　５月　２日

職名　教授

氏名　　川勝　泰介

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	児童文化財としての絵本の活用について

研究成果の概要

児童文化財としての絵本を保育の中でどのように活用すればよいのかについて、主に昔話絵本を中心に考察し、その成果を昨年に引き続き本学図書館でのミニ企画展において披露した。昨年度は、「三びきのこぶた」を取り上げたが、今年度はグリム童話として世界的に知られている「赤ずきん」をペローの「赤ずきん」と比較した。

またこれらの成果は、上記のほかに、三重県生涯学習センターからの委嘱により行われた伊賀市教育委員会主催の令和３年度伊賀市人材育成講座（「読み聞かせボランティア入門講座（第１回）」や岐阜県各務原市の私立子苑第二幼稚園の園内研修、愛知県犬山市の令和３年度地域子育て支援拠点事業子育て広場担当者研修会において発表した。

その他、同志社大学社会学部メディア学科竹内オサム研究室発行の『ビランジ』48号・49号に投稿し、それぞれ掲載された。

上記以外では、北勢エリアの子育てファミリー応援フリーマガジン『きらきら』における絵本紹介を２回、あそび紹介を１回、子育てコラムを１回担当した

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　０）学術論文（　０）学会発表等（　０）その他（　６）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2022/04/28	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和３年度　　研究概要報告書

令和　4　　年　4　月 21　　日

職名　教　授

氏名　安藤　恭子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	形や色を通して、造形に関わる乳幼児の情操を養い、想像力や表現力を豊かにすることのできる保育者としての能力を培うための教材の開発研究及び授業の在り方

研究成果の概要

教材の開発をシラバスに取り入れ授業実践ができた。コロナ禍にて家庭で実習できる教材の開発研究を行い、材料や参考資料の提供をして、学生の表現力が向上した。

画材の組み合わせを工夫することで学生の個に応じた指導の充実を図った。

年間を通して、諸題材では執筆している萌文書林より出版の「幼児造形の基礎」を教科書として採用したため家での課題学習や授業に生かすことができた。

学生一人一人が毎回の作品及び資料の数々を一冊のファイルにまとめることにより、学習実態の見える化を図った。その成果があり、個々の作品が向上した。

いつでも、学生のアイデアを取り入れた教材の開発ができるように、資料、素材等の収集に努め、教室の環境経営を充実させることができた。

本年度の成果を来年度に繋げていきたい。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　2　）学術論文（　0　）学会発表等（　0　）その他（　5　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（あり・(なし)）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/21	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　3年度　　研究概要報告書

令和　4　年　4月２８日

職名　　教授

氏名　　伊藤　康明

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	ICT を活用した領域「環境」の教材開発

研究成果の概要

・授業科目「生活とかがく」「幼児の環境」に関する教材・教具の開発、実験や制作実習教材の作成など、いずれも学生が自然に興味・関心を持つような観点で、家庭でも再現可能な科学実験を中心に工夫した。

また、オンライン授業のための、映像教材を制作した。

（人間の生活と環境、子どもの発達と環境、自然とのふれあい、季節感を味わう、自然を取り入れて遊ぶ、生命の営み、科学を体感する、数量・図形に親しむ）

・教員免許状更新講習「科学あそび」

講習内容について、幼児が自然環境に興味・関心を持つような教材を工夫、演示実験・制作実習を行った。

（空気や水のふしぎ、音のふしぎ、電気のふしぎを中心に）

・学童保育所指導員研修「科学あそび」　Ⅰ期、Ⅱ期

研修内容について、児童が科学に興味・関心を持つような教材を工夫、演示実験・制作実習を行った。

（空気のふしぎ、水のふしぎ、音のふしぎ、光のふしぎを中心に）

・研究のまとめ「Python による Web スクレイピング」

科学教材のデータを収集するため、Web から各種データを収集できるよう、プログラミング言語 Python を使用したツールの開発について研究した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　０　）学術論文（　０　）学会発表等（　０　）その他（　０　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
４年４月２６日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　３年度　　研究概要報告書

令和　４　年４月　26 日

職名　　教授

氏名　　山野　栄子

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①保育内容の教材研究や授業検討に関すること ②保育者の専門性と質の向上に関すること

研究成果の概要

① 今年度もコロナ禍でオンライン開催であったが、保育内容の検討や教材等について、日本保育学会や中部地区研究集会、全国保育士養成セミナー、三重県小児保健協議会、東海保育保健研究会などに参加して、新しい情報を得たり、教材について研鑽を積んだ。その学びを授業や、保育現場の先生がたの研修会や広く地域の家庭教育学級講座、ファミリーサポート養成講座などに活かすことができた。

② 保育者の専門性と質の向上にむけ、子どものニーズ理解と支援方法の検討をする場としての保育カンファレンスについて、先行研究から効果や課題を整理し、今後保育カンファレンスの在り方について（共同研究者　華頂短期大学・渋谷郁子、ユマニテク短期大学非常勤・小島佳子）、また子どもが器楽合奏を楽しむ足がかりとしてのエプについて学生の実演からの学びなどについて（共同研究者　ユマニテク短期大学・桂山たかみ、松本あかり）日本保育学会で発表したり、紀要にまとめた。

③ その他、三重県幼児教育センターのアドバイザーとして、伊勢市や松阪市などで保育の質向上に関する研修会の講師や津市の保育士キャリアアップ研修専門分野「乳児保育」での講師や幼稚園教諭免許更新講習や子育て支援員認定研修の講師を行い、現場の教育・保育の資質向上に研究成果や学びを活かして、地域貢献にも役立てた。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　２　）学会発表等（　２　）その他（　２８　）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/29	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和３年度　　研究概要報告書

令和　4　年　4　月　28　日

職名　准　教　授

氏名　桂山　たかみ

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	保育養成課程の学生に対して、音楽指導能力を培うための教材開発や授業研究

研究成果の概要

1.　学会発表

・桂山たかみ・松本亜香里・山野栄子「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして（2)」日本保育学会第74回大会（中部ブロック)、2021年5月15日～5月16日

2.　論文発表

・平松喜代江・桂山たかみ「創造性・人間性を豊かにする音楽表現活動－劇中の BGM・伴奏音楽について－」ユマニテク短期大学紀要、第 5 号、22-29 ページ、2022 年 3 月

3.　講座・演奏

・教員免許更新講習「音楽表現」2021 年7月、12月

・高大連携事業「音楽表現講習」2021年6月、10月、11月

・ユマニテク短期大学入学前講座（ピアノ入門）2022 年2月

・四日市市民間文化施設活用事業（マリンバ演奏）2022年3月5日　　他5本

保育者養成校の音楽教員の立場から、音符ではなく絵の器楽合奏譜の創作を行った。「こどもが器楽合奏を楽しむ足がかりとして」として、様々な打楽器の作曲をするなどの研究を進め、音楽に苦手意識を持つ保育者志望の学生や保育者に向けた楽譜を考案し、器楽合奏を楽しむ足掛かりを論じた。また、専門ゼミナール地域連携プログラムでの実践活動を通して、地域の対象者別に適した40分コンサート活動を参加学生が企画し、プログラムを考えて実践した。参加した保育士と学生にアンケートを取り、この試みの成果と今後の課題を分析した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　1　）学会発表等（　1　）その他（　9　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/21	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和３年度　　研究概要報告書

令和　4　　年　4　月26　　日

職名　准　教　授

氏名　松本　亜香里

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①　子どもの心身発達にかかわる保育教材および指導法研究 ②　ピアノ演奏技術および表現研究

研究成果の概要

以下の視点を軸に教材研究および指導法研究を深めた。

・こどもの表出や表現をどのように受け止め、そのこどもの姿をどのように捉えるか

・どのようにして保育のしかけを作ること（環境設定）で保育がつながるのか、学生自身が考えられるような授業設定を検討

１年次の学生は高校までの教科教育の流れから、保育者養成での学びも科目単位で区切る傾向がみられる。そこで、１年次前期に開講されている「表現指導法」の授業の試みから、基礎ゼミナールや実習指導まで、科目間の連携により理論と実践の学びをつなげる設定を工夫した。指導法の土台として、学生自身がそれぞれに具体的な保育者像を描き、こどもとどのようにかかわっていきたいか、どのような保育を理想とするか、自身に問いかけ学び続けるという意識付けを目標とした。目標達成に向け、教員間で授業や学生の様子を共有し、授業改善に努め、紀要にまとめた。

今年度は、先にも述べた「こどもの姿の捉え方」と「保育表現指導法」「保育教材研究」に加えて、「科目間連携」ならびに「保育内容領域」着目し、学会発表２本と学術論文３本を研究成果として残した。また、演奏技術および表現研究について、演奏活動を３回、講演を３回実施した。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　0　）学術論文（　3　）学会発表等（　2　）その他（　8　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/21	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和３年度　　研究概要報告書

令和４年４月２日

職名　　准教授

氏名　　田村禎章

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	・地域福祉の主体形成の効果的支援とその方法に関する研究 ・ICT 教育の推進と効果的・効率的な福祉教育実践の在り方に関する研究 ・福祉教育実践における評価方法の在り方に関する研究 ・地域におけるボランティアコーディネート支援に関する研究 ・地域レクリエーション協会の実践・運営支援に関する実践的研究 ・レクリエーション指導及びコーディネート方法に関する研究 ・美容福祉教育の教育カリキュラム設計と教育方法に関する研究 ・ダイバーシティ教育内容と教育方法実践の在り方に関する研究

研究成果の概要

令和３年度は、ユマニテク短期大学の専任教員５年目として、上記研究課題の実践と論証をはかった。以下に記載のとおり、著書や論文をはじめ、講演・研修会の講師実績や、社会的活動は多岐にわたり研究実践をできた。次年度はさらに、論文業績や学会発表をできるよう計画を立てていきたい。

【著書・論文・学会発表・報告書・著作物等】

1）（著書）『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論』、株式会社みらい、2022 年 3 月、全 250 頁、分担執筆。

2）（論文）「『赤堀ふれあいまつり』のボランティア活動の効果」、『ユマニテク教育研究所』創刊号、2022 年 3 月、全 20 頁、共著。

3）（論文）「ボランティア活動に対する意識差と理解」『ユマニテク短期大学紀要』第 6 号、2022 年 3 月発行、19 頁、共著。

4）（学会発表）「授業リフレクションシステムの開発と運用効果」第 6 回国際 ICT 利用研究学会全国大会、国際 ICT 利用研究学会全国大会、2021 年 12 月、共同発表。

5）（学会発表）「コロナ禍における公開講座の実践事例を通した一考察」、国際 ICT 利用研究学会全国大会、2021 年 10 月、共同発表。

6）（学会発表）「紙方式とデジタル方式のリフレクション活動に関する研究」、国際 ICT 利用研究会、2022 年 3 月、共同発表。

7）（学会発表）「アプリを活用したリフレクション活動の試み」、国際 ICT 利用研究会、2022 年 3 月、共同発表

8）（研究発表）「講師養成、コーディネートすることで見えるもの」、文部科学省委託事業 2021 年度成果報告会、単独発表。

9）（著作物）『訪問美容・介護美容の現場と実践』（A4 版カラー、全 100 頁、映像授業 14 本収録）、一般社団

法人美容教育推進協会発行、2021年5月、共著。

１０）（著作物）『医療事務調剤薬局事務スキルアップ講座』デジタルテキスト制作、全100頁、学校法人穴吹学園発行、2021年9月、分担執筆。

１１）（著作物）『ダイバーシティ・トレーナー養成講座異世代間交流マニュアル』、学校法人敬心学園、2022年3月発行、分担執筆。

１２）（報告書）文部科学省委託事業『介護・保育分野における異文化間・異世代間の交流促進のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発　成果報告書（第1巻・第2巻)』、学校法人敬心学園、2022年3発行、分担執筆。

１３）（報告書）文部科学省委託事業『専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト事業　医療現場に貢献できるIT・医療事務スキル人材育成プログラム開発事業　報告書』、学校法人穴吹学園、2022年3月発行、分担執筆。

１４）（コラム執筆）「遊び紹介：『紙皿タンバリン』を作って遊ぼう！『子育てファミリー応援フリーマガジン「きらきら」』2021年9−10月号発行、１頁、単著。

１５）（FMラジオ出演）「保育士養成科で学びましょう！」レディオキューブFM三重『ゲツモク』三重リポート！インタビュー出演、2022年2月出演。

１６）（ケーブルテレビ出演）「感触遊びについて」CTYケーブルテレビ出演、遊び種目解説、2022年3月出演。

１７）（ガイドライン制作）NPO法人岐阜県レクリエーション協会『レクリエーション活動再開に向けた新型コロナウィルス感染拡大予防ガイドライン改訂版』、2021年12月発行、分担執筆、15頁。

１８）（執筆協力）株式会社みらい『福祉保育小六法2022年度版』2022年3月発行、850頁、執筆協力。

【社会的活動業績（講演・研修・指導業績等；主なもの)】

１）三重県教育委員会、教員免許更新講習会「身体表現」担当、2021年7月、12月

２）三重県委託放課後児童支援員・子育て支援員研修「遊び支援、発達支援」講師、2021年10月、11月

３）池田美容学校「介護職員初任者研修、訪問美容研修」講師、2021年7月～12月

４）（社福）川越町社会福祉協議会「福祉協力委員フォローアップ講座（オンデマンド)」講師、2021年11月

５）関市レクリエーション協会「コロナ禍でのマンカラ大会～岐阜県百年公園～」研修講師、2021年11月

６）（社福）川越町社会福祉協議会「福祉協力委員養成講座（オンライン研修)」講師、2021年12月

７）三重県児童館連絡協議会「集団援助活動」講師、2022年2月

８）四日市市富田中学校「キャリア教育のための講演会」講師、2022年2月

９）四日市社会福祉協議会「おもちゃ図書館　ボランティア養成研修」講師、2022年3月

【社会的活動業績（公的組織等における学識経験委員等；現職のみ)】

１）三重県介護福祉士養成施設協議会　会長（協議会の総理）

２）三重県川越町社会福祉協議会　地域福祉教育推進アドバイザー　（地域福祉活動計画策定支援）

３）三重県玉城町社会福祉協議会　顧問・地域福祉共育アドバイザー（地域福祉活動計画策定支援）

４）一般社団法人岐阜県レクリエーション協会　専務理事（レク・インストラクター養成指導、市町村レクリ

エーション協会活性化支援、岐阜県行政「ミナレク運動」政策立案）

5）関市レクリエーション協会副会長、瑞穂市レクリエーション協会副会長、美濃市レクリエーション協会理事長、岐阜県パターゴルフ協会理事長、岐阜県キンボール・スポーツ連盟理事（地域レクリエーション運動の推進、生涯スポーツ・レクリエーションの普及、福祉レクリエーションの指導）

6）公益財団法人岐阜県スポーツ協会「岐阜県民スポーツ大会」大会副委員長（岐阜県民スポーツ大会の企画、運営支援）

7）岐阜県清流の国推進部地域スポーツ課「第 33 回全国健康福祉祭（ねんりんピック岐阜）」基本構想策定委員会委員（ねんりんピック岐阜 2022 の大会企画構想支援）

8）文部科学省委託事業：「分野横断型リカレント教育プログラム開発（介護・保育分野における異世代間の交流促進のための分野横断型教育プログラム開発事業）」実証講座企運営会委員（専修学校卒業者におけるリカレント教育促進プログラムの開発、効果実証研究委員）

9）コンソーシアム三重、地域貢献部会委員（ダイバーシティ推進教育設計、研修支援）

１０）　四日市市役所、子育て支援事業等に関する業務委託契約にかかるプロポーザル評価委員会、副委員長

※（　）に本数をご記入ください。

著書（1）学術論文（2）学会発表等（5）その他（１０）

国際活動の有無（あり・[なし]）　社会的活動の有無（[あり]・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
2022 年 5 月 15 日	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。

ユマニテク短期大学

令和　3　年度　　研究概要報告書

令和　4　　年　4　月　27　日

職名　講師

氏名　伊藤　喬治

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①ノルウェーにおける教員養成制度に関する研究 ②保育実習指導における学生指導と専門職性の養成に関する研究

研究成果の概要

① 伊藤喬治「ノルウェーの保育者養成における専門性に関する一考察　―学生向けテキストの分析から―」日本保育学会第74回大会、富山大学、2021年5月。

本研究では、ノルウェーの教員養成において専門性として捉えられている概念を明らかにするために、当地でテキストとして使用されている文献を用い、その中で扱われているトピックについて分析を行った。そこで、遊びや発達の理論に関する内容よりも、社会的・政治的内容や、子どもとの権力関係や民主制の保障など、よりポストモダン以降の社会学的・哲学的な面での理論についての内容に重点が置かれていると考えられることが明らかとなった。そこから、ノルウェーにおいては保育者の専門性として考えられている部分のうち、上記のような視座や思考様式の獲得がある程度のウェイトを占めていると考えられることが明らかとなった。

② 松本亜香里、伊藤喬治「保育内容5領域をつなぐ視点の学び　―表現指導法の授業実践から保育内容総論とのつながりを試みて―」『ユマニテク短期大学紀要』ユマニテク短期大学、第5号、pp43-52、2022年3月。

本研究では、教科教育的教育観を強くもつ大学入学間もない学生に対し、保育における5領域の学びにおいて、従来の教育観に根差した教科的概念を払拭し、5つの領域を相互に関連付けながら、子どもが充実して育つ姿を捉えるための5つの側面として捉えられるようになることを目的とし、実践から授業展開のあり方を検討した。その中で、本研究で分析対象とした「表現指導法」の授業と筆者が担当する「保育内容総論」の教授内容と時期の重なりを活用し、科目間連携と教授方法のすり合わせを行ったことにより、学生が多角的な視点で活動および5領域を捉えるための視点を授業が進むにつれて早期に体系的に獲得していく様子が見られることが明らかとなった。

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（　1　）学会発表等（　1　）その他（　5　）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（あり・(なし)）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績をresearchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等をresearchmapへ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/27	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください

ユマニテク短期大学

令和３年度　　研究概要報告書

令和４年４月２７日

職名　　助教
氏名　大矢　知佳

下記の通り研究成果の概要を報告いたします。

主要研究テーマ	①就学前後における脳神経活動に着目した運動遊びの効果の検討 ②体育科教育における武道領域の課題と展望について

研究成果の概要

・就学前後における脳神経活動に着目した運動遊びの効果の検討

身体を動かす情報や指令は神経細胞 によって伝達されている。子どもは神経型の発達が著しい時期とされており、基礎的な動きの獲得に適した時期である。文献調査よりヒトの動きの獲得の構造と子どもの脳・神経機能の発達と動きの獲得のメカニズムを整理し、現在も継続して文献を調査中である。

脳において、感覚器官からの情報と運動司令の情報の統合性より身体の動きの調整をしている。この調整を脳と筋の間の神経活動における同調性から評価する方法としてコヒーレンス法という手法が示されている。近年では筋電図間におけるコヒーレンスによって評価が可能であると考えられ、無線の筋電機器を使用することにより、運動遊び中の脳神経活動を示すことができるのではないかと考える。 まず、歩行課題における筋間コヒーレンスについて検討し、単一歩行、二重課題歩行における脳神経活動について検討する。今年度は、成人において予備実験を重ね、測定法について確立していった。来年度成人を複数名測定する予定である。この結果を踏まえて幼児を対象として測定を進めていく予定である。

・体育科教育における武道領域の課題と展望について

中学校の保健体育の学習の中で、武道領域が必修化となり、10 年が経過した。学習指導要領も改訂され、武道学習の課題から今後の研究課題と展望についてまとめた。

愛知教育大学保健体育講座研究紀要 2022 年 3 月 31 日発行（掲載予定）

※（　）に本数をご記入ください。

著書（　　）学術論文（2）学会発表等（　　）その他（3）

国際活動の有無（あり・(なし)）　社会的活動の有無（(あり)・なし）

※概要を記載し、必要に応じて具体的な詳細は別紙添付し、補足すること。

※共同研究を行っている場合は、共同研究者氏名・所属も記入し、下線を引くこと。

更新日	本学の専任教員は、研究業績を researchmap（https://researchmap.jp/）へ入力することとしています。今年度の個人研究費に関わる業績等を researchmap へ入力・更新してくださいますようお願い致します。左記に更新日をご記入ください。
4/27	

※本報告書は大学ホームページ上で一般公開されますので、秘匿性のある情報（研究アイデア、知財情報、個人情報）の記載は行わないようご留意ください。